

各論 3

【各論 3】

鳥取県での取り組み

(大学教育としての小児在宅医療人材養成)

事業の概要

鳥取県における重症児・者診療について、平成 22 年度より県と医療機関で検討を重ねてきた。平成 26 年度に鳥取大学は文部科学省大学改革推進等補助金課題解決型高度医療人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」の採択を受けた。本事業は、重症児診療を担う医師や看護師、ケースワーカーなどの人材養成を柱として、地域支援ネットワークの構築を目指す。鳥取大学を中心に、県内の病院と療育機関、行政や医師会、看護協会、福祉事業所、教育機関、患者団体などの協力のもとに事業を推進している。人材養成プログラムは、講義や実技、グループディスカッション、症例検討、支援会議参加などからなる。育成した人材が、将来的に当地で在宅支援に関わることが目的であり、患者・家族が地域資源を実際に利用することが目指すところである。地域に根差した在宅支援ネットワークを構築し、重症児・者の在宅支援モデルとなるよう取り組んでいる。

内容

1. 小児在宅医療に関する課題、背景：①地域で在宅医療や福祉サービスを利用している患者は少ない。②急性期診療を限られた急性期病院と療育施設が担っている。③小児に対応できる訪問診療医や訪問看護ステーションが少ない。④関係機関連携が不十分。⑤コーディネーターの不在。
2. 事業を行うことで改善したい課題：重症児・者に対応できる人材を養成すること、および地域でネットワークを構築することで重症児・者の在宅生活を支援したい。
3. 事業名：文部科学省 大学改革推進等補助金 課題解決型高度医療人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」
4. 事業目的：①重症児診療を担う医師や看護師、ケースワーカーなどを養成する。②地域支援ネットワークの構築
5. 事業主体、協力者：鳥取大学医学部・医学部附属病院が主体で、病院と療育機関、行政、医師会、看護協会、福祉事業所、教育機関、患者団体等と協力し事業を推進する
6. 対象者：毎年 10 名以上。医師、看護師、社会福祉士、相談支援員、ヘルパー、など
7. 開催に必要な事業費用と調達した基金：文部科学省
8. 事業時期：平成 26 年度～ 30 年度
9. 事業内容：重症児・者診療を担う人材養成（多職種）
10. 事業立案者：鳥取大学医学部脳神経小児科
11. 事業形式：講義、実技、グループディスカッション、症例検討、支援会議参加、など
12. 講師、ファシリテーター：主に大学スタッフ、地域の専門職、外部講師
13. 事業の広報：HP および、県内の施設に案内を送付
14. 事業運営：大学医学部職員
15. 予想される事業効果と判定方法：在宅支援を担う専門職が増える。評価はコース修了者数と事業を行う実人数の増加および患者の医療・福祉利用数の増加で行う。
16. 事業を開催するうえでの問題点：スタッフの確保と参加者が継続してコースを受講することが困難。
17. 本事業につながる次の事業：検討中

【引用情報】

●重症心身障害児・者の福祉制度利用に関する調査. 熊崎健介, 吉岡俊樹, 玉崎章子, 前垣義弘. 米子医学雑誌 66 (4-5) : 81-89, 2015

鳥取県西部地区の準超重症児・超重症児(2010年)

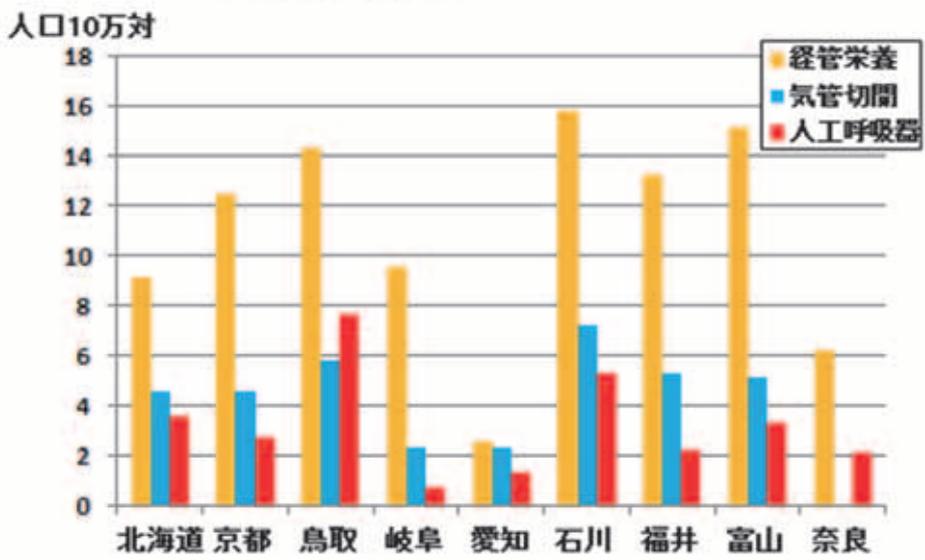
鳥取県西部 35人 14.6人/10万人
 超重症児 23人 9.6人/10万人
 準超重症児 12人 5.0人/10万人

東京都多摩地区(2010年)
 超重症児 77人 1.6人/10万人
 準超重症児 123人 3.0/10万人
 (日本小児科学会雑誌114(12)1892-1895)



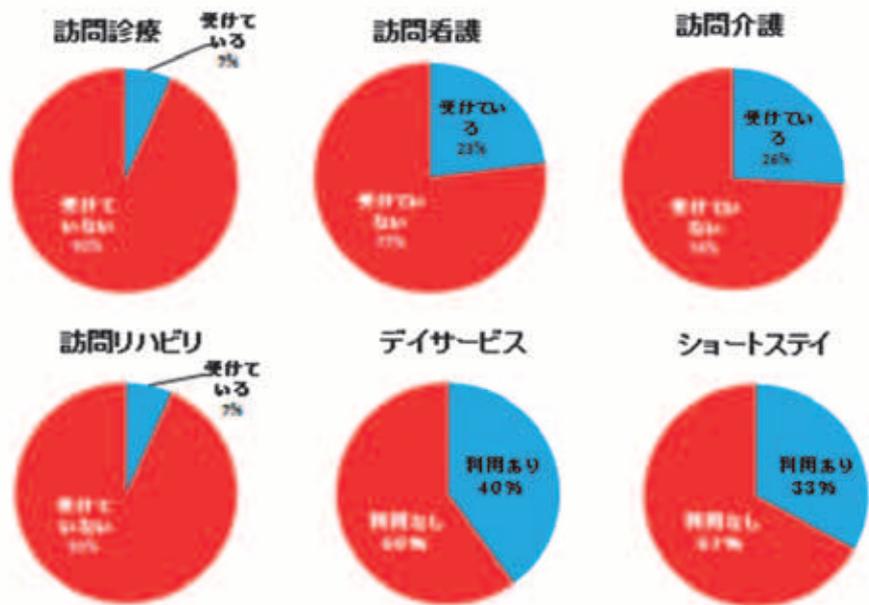
都道府県別医療的ケアの必要な児・者

(脳と発達46: 232-6, 2014)



鳥取県西部地区は、人口当りの超重症児・準超重症児数が多い。医療的ケアの必要な重症児・者数が多い。

在宅医療・福祉サービス利用状況(平成26年、医学生実施)
鳥取大学通院中の重心児・者の家族への聞き取り調査



訪問診療や訪問看護、福祉事業者の利用数は少ない。

鳥取県における重症児の在宅医療・在宅支援の問題点

- ・患者数は50例と少ないが、高度で多様な医療行為を要する
- ・軽症例の入院施設・回復期病床が少ない
- ・小児に対応できる訪問診療医が少ない
- ・小児に対応できる訪問看護・リハビリ事業所が少ない
- ・施設間の連携が不十分
- ・家族のニーズと病院・事業所とのギャップが大きい
- ・コーディネーターが不在
- ・重症児の通所・通園施設、レスパイト施設が少ない
- ・入院時の問題
 - 付き添いが困難(入院が長期化しやすい)
 - 16歳以上の患者の病室の問題

鳥取大学×鳥取県のこれまでの取り組み

- 平成22年度 鳥取大学と県立総合療育センターで意見交換会
- 平成23年度～ 鳥取県重症心身障がい児・者関係医療機関会
年2回開催
メンバー:鳥取県福祉保健部、急性期医療機関、療育施設、
重心施設
- 平成25年度～ 県東部と西部の各圏域で検討会・研修会
- 平成26年度～ 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」(h26-30)
- 平成27年度～ 鳥取県重症心身障がい児・者関係医療機関会
の拡大
メンバーに県医師会、看護協会、教育委員会、福祉事業所
(患者家族代表)を追加



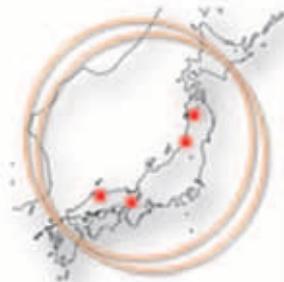
文部科学省 大学改革推進等補助金 課題解決型高度医療人材養成プログラム
重症児の在宅支援を担う医師等養成事業(平成26-30年)

✓ 人材養成

1. 重症児診療の高度な知識と技能を持ち、他職種・他機関と連携できる医師の養成
*鳥取大学に大学院コース(4年)を開設
2. 地域で重症児診療・支援する医師や看護師、ケースワーカーの養成
*4拠点でインテンシブコースを開設

✓ 地域支援ネットワークの構築

1. 4拠点で地域支援ネットワークを構築
2. 全国モデルに発展





人材養成: 専門医養成

大学院コース(4年): 鳥取大学、大阪市立大学

- ・専門的知識・医療技能の習得
- ・マネジメント能力を習得
- 小児在宅診療のエキスパートの養成

各大学の専門領域

- ・鳥取大学/脳障害の評価と治療
- ・秋田大学/脂質代謝異常の解析
- ・山形大学/脳形成障害の解析
- ・大阪市立大学/代謝異常の治療

遠隔
→
講義

講義科目

- ・小児在宅医学特論
- ・実践的小児神経学演習
- ・在宅人工換気実習
- ・代謝学特論
- ・脳形成異常特論
- ・コミュニケーション特論



人材養成: 地域の医師、看護師ソーシャルワーカー

インテンシブコース(1年間、単位制)

医師・看護師

- ・重症心身障害医療に関する理解
- ・発達、リハビリテーションに関する理解
- ・在宅生活プランの立案
- ・診療報酬の理解
- ・医療福祉制度の理解

社会福祉士

- ・重症心身障害児・者の在宅移行、在宅支援についての理解
- ・医療福祉制度について家族へ提案
- ・地域の医療機関、事業所との連携の窓口
- ・関係機関調整(コーディネーター)



＊地域で働く人材の育成＊

インテンシブコース

地域で重心児を診療する医師を増やす

- ・かかりつけ医: 予防接種や感冒時の一次診療
- ・二次救急の受け入れ病院を増やす

重心児に対応できる訪問看護師を増やす

重心児の総合的な相談ができる人材を作る

- ・病院: メディカルソーシャルワーカー
- ・事業所: 相談支援員、社会福祉士

平成27年度インテンシブコース概要



講義15時間以上、経験症例5症例以上、退院調整・在宅支援カンファレンスの参加（それぞれ3回、4回以上）、ネットワーク研修会参加（年1回以上）で修了証を発行。
* 講義をビデオ撮影し、当日参加できなかった受講者に利用

平成28年度インテンシブコース プログラム

日程	場所	プログラム
4月23日(土)	医学部構内	開講式/演義/ グループワーク(生活スケジュールとサービス等利用計画書をつくらう!)
5月7日(土)	医学部構内	演義/実技演習会(基礎編1)
5月20日(土)	鳥取市内	研修会: 介護緩和ケア/グループワーク(困難な場合と家族の支援)
6月10日(土)	医学部構内	演義/事例検討会(在宅生活におけるリスクマネージメント)
7月30日(土)	医学部構内	演義
8月8日(土)	医学部構内	演義/事例検討会(成人期の在宅支援)
8月24日(日)	米子市内	山陰小児在宅支援セミナー/実技演習会(基礎編)
9月10日(土)	医学部構内	演義/実技演習会(アドバンス編)
10月8日(土)	医学部構内	演義/事例検討会(NICUから在宅へ)
10月29日(土)	倉吉市内	研修会: 医療機器メーカーからみた在宅支援/グループワーク(急性疾患後の在宅移行)
11月2日(土)	医学部構内	演義/事例検討会(教育現場における医師的ケア)
12月11日(日)	鳥取市内	演義会/実技演習会(アドバンス編)
1月21日(土)	医学部構内	演義/グループワーク(生活スケジュールとサービス等利用計画書をつくらう!)
1月28日(日)	米子市内	演義会(小児期から成人期への支援: 移行期医療について考える)
2月22日(土)	閉講式/市民公開講座	

演義は、ビデオ撮影し当日参加できなかった受講生のために利用

事例検討会

<ねらい>

自宅での突然死症例を通して、多職種連携で行うリスクマネジメントについて考える。





人材養成:医学部学生への教育

- 3年生医局配属(h26年度):在宅重症児・者家族にニーズ調査実施
- 4年生講義:重症児の医療と地域支援の必要性
- 5年生実習(クリニカルクラークシップ):重症児・者のグループホームへ訪問(学生全員、半日)
- 6年生実習:気管吸引や胃瘻などシュミレーターを使った実習(選択 3人×3クール)

実施計画と途中経過1



実施計画と途中経過2

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
内部評価委員会(鳥取大学)	1回/年	→				
外部評価委員会			中間評価		最終評価	
学生実習	各大学	→				
市民講演会	キックオフ講演会(鳥取)	4拠点で開催	→			
			合同セミナー(東京)			